

「読書について」

電子制御工学科 雛元 洋一

読書は知識を身につけたり、特にドキュメンタリー本などを読むと擬似体験になったりするため、生活には欠かせないものとなっている。また、娯楽や楽しみの要素もあり、気が晴れたり、紛れたりもする。

ただ、私の経験談だが、学校生活において授業をあまり熱心に聞いていないと、授業についていけなくなり、授業自体に楽しみを見出せなくなったりする。すると、他の趣味、たとえば読書のほうが楽しいので、読書にのめり込むようになり、勉強との両立が難しくなってしまったのだ。だから、勉強と読書は両立させるように配慮しなければいけないと思う。しかし、読書についての楽しい思い出もあり、集英社から「ナツイチ」という、夏休みに合わせて読むことを推薦する本 100 冊のフェアが開催され、その中から読みたい本をピックアップしては読んでいた。その中でも「遠野物語」などは特に印象深く、楽しく読ませていただいた。このとき、種々雑多な本を読んで、色々な話を楽しんでは読書歴に記録していったり、読書感想文をがんばって書いてみたりした。けれど、今では自分が読みたいと思う本を読んでいる。

また、学校の中で教科書を試験前にチェックするのも一種の読書だと思う。また、学校での授業や教科書だけでは分からないようなテストの問題などは図書館で教科書の内容と関連した他の本を調べて、分かる範囲で勉強したりするのも有効であると思う。とにかく、友達と話したりするだけでなく色々な本を読んでみるのは楽しい経験であると思うし、視野も広がると思う。

以上、手短かに読書について私の考えるところを述べさせてもらった。